

4

Annual Report 2018

委員会

委員会組織図

活動報告

病院機能向上推進室会議

治験審査委員会

研修管理委員会

臨床検査精度管理委員会

救急部運営委員会

がん化学療法レジメン審査委員会

医療機器安全管理委員会

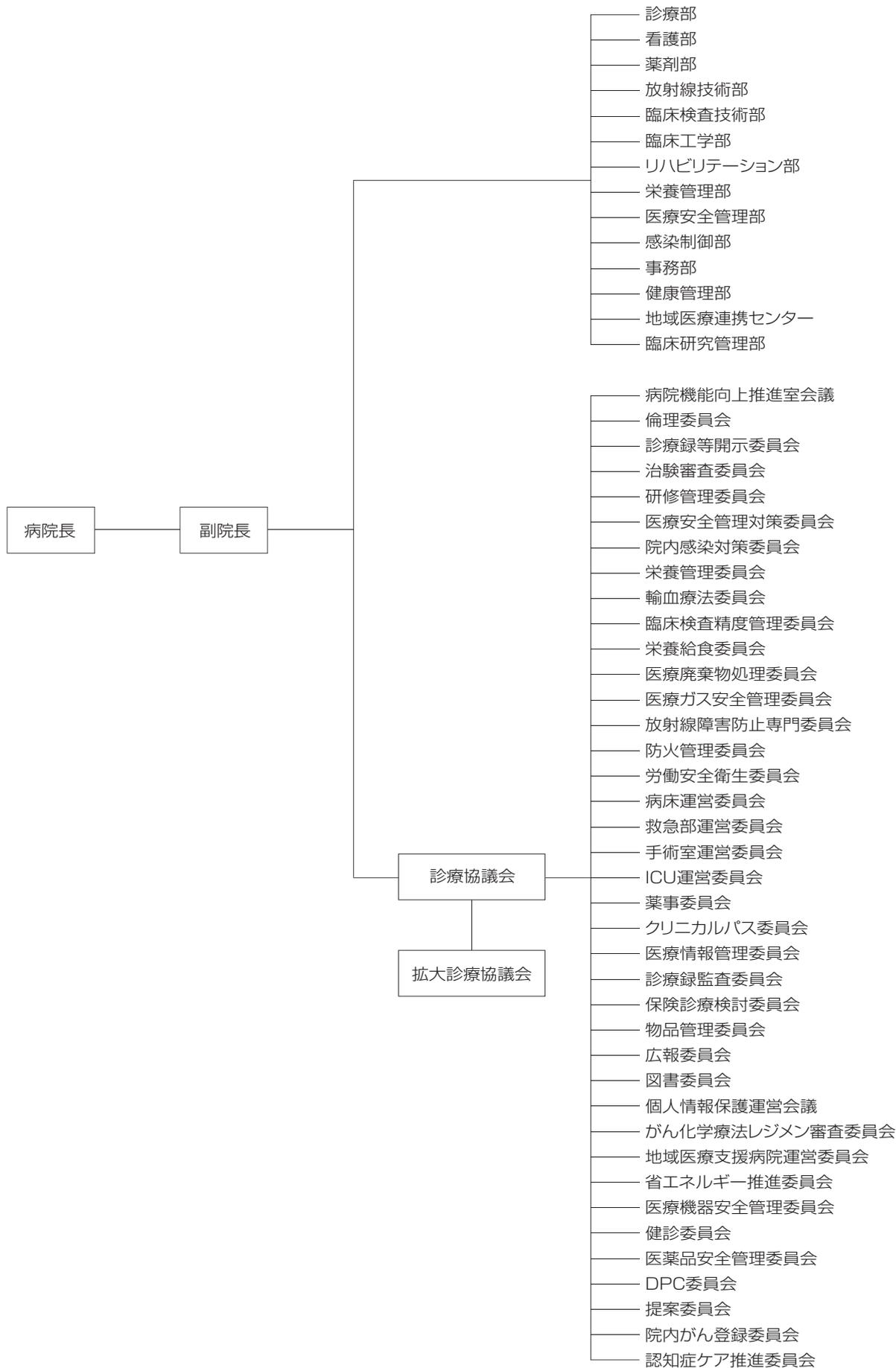
医薬品安全管理委員会

認知症ケア推進委員会

院内がん登録委員会

委員会組織図

2019年3月31日現在



病院機能向上推進室会議

目的

医療サービスの質向上および職場環境の向上に関して、病院職員が組織横断的かつ主体的に取り組み、患者さんおよび職員の満足度を向上することを目的として活動しています。

活動状況

- 各検討課題について、「新規活動検討」「事案フィードバック」「広報」の3チームに分かれ、内容を検討・討議しました。
- 接遇ワーキンググループにて職員の接遇向上のための研修を部署ごとに行いました。「ナイスです!カード」の活用・広報や、接遇優秀者の表彰も行いました。
- 「母の日」「父の日」に職員のお子さんから似顔絵を募集し、院内に展示しました。
- 小学校高学年を対象に、「こども探検隊」を企画し、実際の医療現場を体験してもらいました。
- 職員向けに「機能向上つうしん」を発行し、活動内容を周知しています。

重点目標・評価と来年度への展開

2018年度は、患者さんからいただいたご意見・ご要望に1つひとつ丁寧に対応しました。また、病院機能評価における3年後の自己評価を担当することになりました。今後も病院のサービス向上に貢献していきます。毎年クリスマスの時期には、1階ロビーにてコンサートを企画・運営しています。

治験審査委員会

目的

医学・薬学などの専門委員・非専門委員および外部委員によって構成された医療機関の長・治験責任医師および治験依頼者から独立した委員会で、治験の原則（ヘルシンキ宣言に基づく倫理原則やGCP省令の遵守など）に従い、倫理的・科学のおよび医学的・薬学的妥当性の観点から治験の実施および継続などについて適時審査を行い、医療機関の長に通知することを責務としています。

活動状況

委員会の開催・審査の実績(2018年度)

年間開催数	新規試験総数	1回当たりの継続審査試験数
12回（毎月1回開催）	年間6試験	平均22.4試験

重点目標・評価と来年度への展開

従来同様に、新規治験の審査時期の調整と準備期間を確保しながらスムーズな導入を図るとともに、継続審査も含め倫理的・科学のおよび医学的・薬学的妥当性について、適時・適切な審査を維持します。

研修管理委員会

目的

将来プライマリーケアに対処し得る第一線の臨床医、あるいは高度の専門医のいずれを目指すにも必要な診療に関する基本的な知識・技能及び態度を修得するための臨床研修プログラムを作成・管理し、臨床研修に関する事項について協議することを目的としています。

重点目標・評価と来年度への展開

2018年度は1年次研修医1名(基幹型)、2年次研修医4名(基幹型1名・協力型3名)の計5名の研修医が在籍しました。現在在籍する研修医の研修環境の更なる充実と、研修医の確保に向けた医学生実習の充実に注力した年度となりました。医学生実習については、臨床実習時の医療行為についてのガイドラインが27年ぶりに整理されたことから、適切な実習を実施するために、患者さんの同意書等の環境整備を行いました。

初期臨床研修プログラムについては、2020年4月からの臨床研修制度の改正に対応する必要があり、改正点の理解(特に小児科、精神科、産婦人科の必修化)を深めました。また、制度改正を見据えて当院に医師不在の精神科・産婦人科領域における研修を強化すべく、長崎大学病院との研修協力体制を構築しました。

臨床検査精度管理委員会

目的

当委員会では、法的にも定められている検査の質確保のために「精度管理」を適切に運用し、検査への取り組み方、設備や機器、教育などを含め検査の信頼性に影響を与えるすべての要因について検討し、検査業務を円滑かつ適正に改善・発展させることを目的としています。

活動状況

外部精度管理実施状況:自施設のデータが他施設とどのような位置関係にあるか知ることは検査精度の維持、向上また、見直し、改善の参考となり積極的に参加しています。

項目	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
日本医師会	97.6点	99.0点	88.2点	97.1点	98.6点
日本臨床検査技師会	99.7点	98.3点	98.7点	98.7点	98.6点

不適合と判断されるものについては全て原因追究がなされ、必要なものは是正処置を実施しています。

重点目標・評価と来年度への展開

臨床検査の信頼性を維持するために外部精度管理への参加および、日々の内部精度管理の取り組みを継続していき、質の高い臨床検査結果を提供していきます。

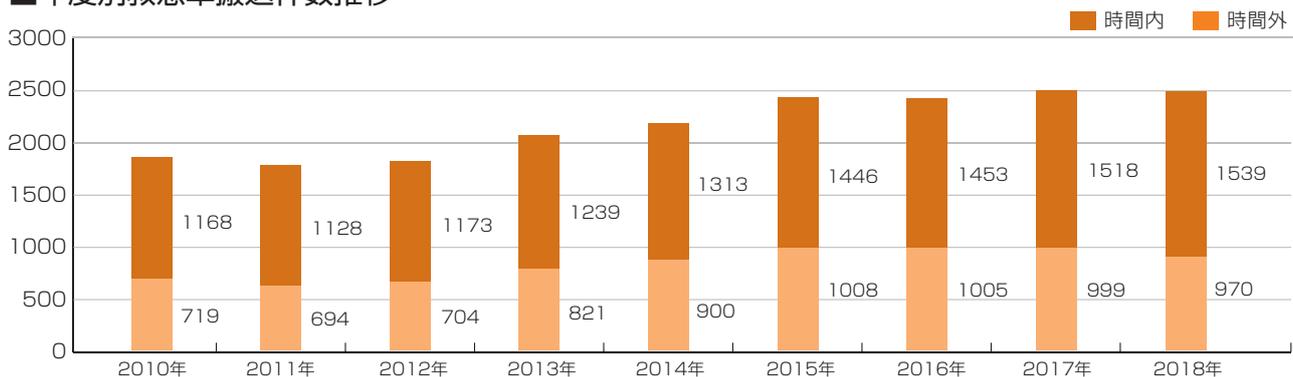
救急部運営委員会

目的

- 救急車搬送数の増加と救急外来からの入院率増加に繋がります。
- 多職種協働によるチーム医療を展開することで、患者さんが安全・安心して治療を受けることができるように支援します。
- チームワーク力を発揮し、観察力・判断力を養い予測しながら行動をしていきます。

活動状況

■年度別救急車搬送件数推移



■活動内容

- ・救急部運営会議の実施(2回/年)
- ・救急看護認定看護師による、専門的知識・技術習得のための分散教育実施(3回/年と臨時開催)
- ・救急部症例検討会の実施 ・多職種協働による時間内・時間外のスムーズな受け入れ
- ・院内蘇生チームとして院内急変患者への対応

重点目標・評価と来年度への展開

- 的確な症状別問診と院内トリアージ導入後の評価を行い、救急医療・看護の質向上を目指します。
- 救急チームの構築と活動を行います。
 - ・救急外来における教育体制の確立(救急シミュレーション・分散教育・症例検討会)
 - ・救急診療システムの構築

がん化学療法レジメン審査委員会

目的

抗がん剤標準治療計画の妥当性を保証することを目的としています。

活動状況

- ①レジメンの新規登録 11件 ②レジメンの見直し 110件
 ③レジメン使用状況調査:外来110件/月、入院40件/月 ④委員会メンバーの再構成とコアメンバー会議について

重点目標・評価と来年度への展開

新規の抗がん剤や分子標的薬、治療法が増加していくなかで、常に有効で安全な化学療法の標準化に努めます。2019年度も引き続き、新規レジメンの審査や登録後のレジメンの評価の効率化を図り、レジメン審査委員会の充実を目指します。

医療機器安全管理委員会

目的

本委員会は平成19年4月より医療機器安全管理検討会として発足し、平成24年3月より委員会として承認されました。病院全体における医療機器安全管理に貢献するために活動しております。

当院における医療機器安全管理体制の確立、医療機器安全管理のための具体的方策等について、指針を示すことにより、適切な医療機器安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としています。

協議事項

- ① 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施に関する事。
- ② 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施に関する事。
- ③ 医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施に関する事。
- ④ 病院が管理する全ての医療機器に係る安全管理のための体制に関する事。
- ⑤ 関連規定の策定および見直しに関する事。
- ⑥ 医療機器を管理するシステムに関する事。

活動状況

6月 合同研修会 ※1 9月 運営会議 3月 運営会議

※1 合同研修会とは従業員に対し年間研修が義務付けられている委員会が合同で年2回の従業員向け研修を行っています。

医療機器管理システム登録状況

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
リハビリテーション部	94	99	98	98	100
システム開発室	1,209	976	978	982	1,008
看護部	520	632	699	737	765
検査技術部	175	188	185	187	212
放射線技術部	83	99	82	82	84
薬剤部	27	27	27	27	27
その他	24	20	23	25	26
臨床工学部	924	938	940	948	964
合計	3,056	2,979	3,032	3,086	3,186

委員会発足以来、当法人オリジナルの機器管理システムを開発運用しております。現在では、施設・部門の壁を超えて、購入・教育・運用・廃棄まで一貫した医療機器管理を目指しております。

医薬品安全管理委員会

目的

医薬品の安全管理に関して、医薬品安全管理責任者の配置に伴い、医薬品安全管理体制の確立・医薬品安全管理のための具体的方策などについて指針を示すことにより、適切な医薬品安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的としています。

活動状況

委員会は、年2回(3月と9月)開催しています。また、全職員に対して医薬品安全に関する研修会を年1回開催しています。

重点目標・評価と来年度への展開

合同研修会において、PMDA医薬品情報(緊急安全性情報・安全性速報・医療安全性情報など)、医薬品副作用被害救済制度について講演し、医薬品に係る安全の啓蒙と情報共有を実施しました。

2019年度も全職員への医薬品情報を適切に発信し、情報共有に努めます。また、管理体制や手順書を見直し、実務レベルと相違ないか確認を行います。

認知症ケア推進委員会

目的

認知症ケアに関する知識や技術を全職員が習得し、患者様、そのご家族に提供できることを目的としています。

活動状況

- 開催日 ・毎月第一月曜
- 委員会メンバー ・各部署から推進委員を1名選出。全15名で運営
- 協議内容 ・認知症ケアに関する技術の伝達と指導 ・症例動画を流し、技術と効果の確認を検証
・全職員に認知症ケアに関する技術への理解度評価
- 症例レポート提出 ・全職員に年間1名以上、症例レポートを作成し提出を依頼。提出率:92.5%
- 症例報告会の開催 ・2019年2月に症例報告会を開催。3部署から症例を報告し、100名の職員が参加

重点目標・評価と来年度への展開

全職員に実施した理解度チェックは前回評価と比べ4%~20%上昇しました。徐々にではありますが、入院病棟からケアの技法を使用して症状が改善したケースの報告があがっており、委員会の活動が定着してきました。しかしケアの項目毎に評価すると理解度が低い項目もありました。

当委員会の重点目標として認知症ケアを浸透させ、全職員がケアの技術を使用できることを目標としております。そのため、2019年度は年に1度実施する理解度チェックに向け、委員会内で推進委員に技術の伝達をおこない、推進委員が各部署にケアの指導をおこないます。また推進委員と運営幹事が各部署をラウンドし、職員がケアの技術を使用できているかを確認。直接指導をおこなうことで職員の理解度向上を目指しております。

数値目標:全職員「見る」の理解度90%以上

院内がん登録委員会

目的

病院におけるがん診療の向上と患者診療への支援、患者・家族、一般への情報提供、ならびに国のがん対策のための情報提供を目的としています。

活動状況

- 委員会:年2回開催
- 院内がん登録対象者のデータ分析
(院内掲示・ホームページ掲載)
- 院内がん登録データの二次利用に関する適否の審議
- がん対策に関する長崎県ホームページの掲載内容の検討

重点目標・評価と来年度への展開

質の高いがん登録と情報の提供を目標とし、国立がん研究センター主催の研修会、県内のがん診療連携拠点病院及び推進病院との実務者会議、あじさいネットTV会議を利用した研修会へ参加し、他の医療機関とも協力して、より質の高いがん登録ができるよう日々取り組んでいます。

2018年度は、部位別、年齢別、性別のがん登録者数の提示、国立がん研究センターへのデータ提出、データの二次利用にも協力することができました。

2019年度は、予後調査に力を入れ、病期別の生存率など、更に情報提供ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

■がん登録臓器別登録数年次推移

原発部位	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
大腸	145	131	157	157	140
乳房	88	74	124	107	132
胃	73	108	104	85	96
肺	58	70	63	64	76
前立腺	64	42	33	44	56
肝臓	30	34	40	20	22
膵臓	17	31	23	32	24
脳・中枢神経	12	19	26	21	27
膀胱	36	20	25	11	0-10
食道	11	17	15	20	18
腎・他の尿路	13	0-10	17	13	17
胆嚢・胆管	12	13	11	16	15
皮膚	16	15	14	0-10	16
悪性リンパ腫	13	0-10	0-10	0-10	12
子宮	0-10	0-10	0-10	0-10	11
甲状腺	0-10	0-10	0-10	0-10	0-10
口腔・咽頭	0-10	0-10	0-10	0-10	0-10
卵巣	0-10	0-10	0-10	0-10	0-10
白血病	0-10	0-10	0-10	0-10	0
骨・軟部	0	0-10	0-10	0	0-10
喉頭	0-10	0-10	0-10	0	0-10
他の造血器腫瘍	0	0	0	0-10	0-10
多発性骨髄腫	0	0-10	0-10	0-10	0-10
その他	12	16	12	12	12

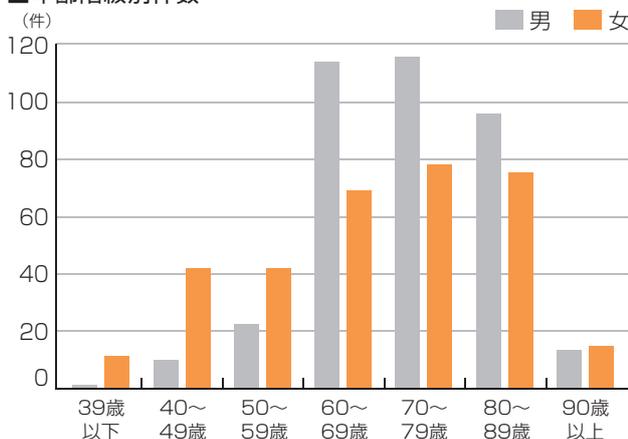
※2018年12月31日現在の登録データです。
データ上、10件に満たないものを「0-10」で表示しております。

〈2017年症例〉

■地域別件数

佐世保市	西海市	東彼杵郡	北松浦郡	平戸市	松浦市	長崎市	大村市	対馬市	県外
550	60	29	12	18	0-10	0-10	0-10	0-10	20

■年齢階級別件数



■部位別登録件数(上位10部位)

